

(仮称)国立病院機構東近江総合医療センター 開設に向けた初めの第一歩

国立病院機構滋賀病院

平成22年1月に策定された滋賀県地域医療再生計画（東近江医療圏）及び平成22年6月に策定された東近江市病院等整備計画により、当院は東近江市立2病院との集約化と再編を図り、新たに(仮称)独立行政法人国立病院機構東近江総合医療センターとして、地域の中核病院の役割を担い、平成25年に生まれ変わります。

平成23年4月には、いよいよ地域医療再生に向けた取り組みの第一歩として、滋賀医科大学の寄附講座の医師を含め医師14名の体制から25名の体制となりました。この体制により、平成12年12月に標榜を外してから10年ぶりに婦人科を開設することができ、今年の秋には産婦人科外来の開設も予定しています。また、救急科を新たに設置すると共に、二次救急輪番を充実させ、輪番日以外も内科系・外科系の医師2名による24時間体制で救急患者の対応を行い、地域住民から信頼される病院づくりを目指しています。



5月には、これまで休棟していた3階病棟の45床を開棟し、180床での運営を始めました。救急科を開設したことにより、新規入院患者数も増加しており、ゆるやかではありますが、順調な滑り出しをしています。

また、平成25年の春に竣工予定の新病棟の設計が始まり、多くの職員が携わり、わが子の誕生を夢見るが如く、心はずませつつ真剣に細部に渡って議論しているところでもあります。そして、6月には外観図もできあがる予定で、職員、地域住民、地域医療機関の方々に当院が地域の中核病院となることに現実味が帯びてくることと思います。



新病棟の設計打合せ

今後、本年7月には循環器科、10月には整形外科医が常勤として勤務を始め、着々と診療機能の充実も図っていきます。

これからも平成25年の新棟開棟を目指して職員が一丸となって努力をしていきます。